

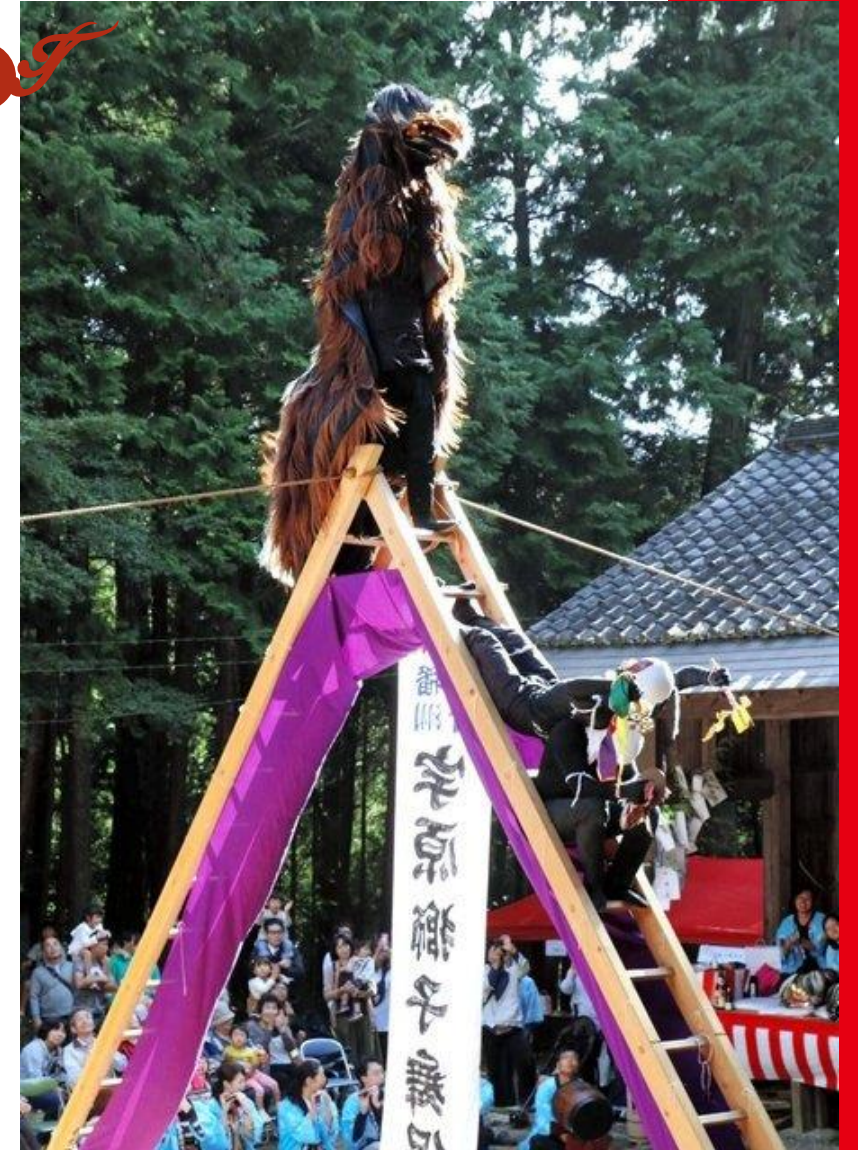
令和7年度兵庫県地域文化を考えるシンポジウム
兵庫県宍粟市

U HARASHI SHIMA I HOZON KAI
 宇原獅子舞保存会

持続可能な 伝統芸能継承への挑戦



日本酒発祥の地 宍粟市から、世界へ。
～宍粟市の伝統芸能が世界に響いた瞬間～



CONTENTS

Chapter All

- 1 宇原獅子舞のご紹介
- 2 社会課題を解決するための挑戦
- 3 主な実績
- 4 今後の取り組み

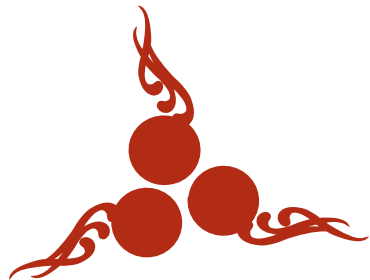


Chapter 1



宇原獅子舞のご紹介

宇原獅子舞は、兵庫県宇原地域に継承されている獅子舞



1 宇原獅子舞のご紹介

(1) 理念

宇原獅子舞保存会の理念は「**宇原獅子舞を活かした地域おこしと地域貢献**」

(2) 歴史

兵庫県宍粟市の**宇原地域において360年間継承されてきた獅子舞**。使用している太鼓の内側には万治3年（江戸時代1660年）の銘があり、宇原地域の天満神社へ奉納した記載がある。また、「山崎藩覚書帳」には、安政5年（1858年）の約150年前に山崎藩主の本多忠明が肥前守を命じられ、その祝賀会で披露した記録が残っている。



1 宇原獅子舞のご紹介

(3) 概要

兵庫県の姫路市から宍粟市まで播磨伝播により継承されてきた由来のある毛獅子。
低い姿勢で生きたように舞うのが特徴。獅子の毛は馬の鬣を使用しており、雄が黒、白、茶の三種、雌が、黒、白、茶、赤茶の四種を使用している。昭和62年10月8日、宍粟市から、**宍粟市無形民俗文化財の指定**を受けた。演目は、宮入、神楽、曲舞、牡丹、刀、相之山、道引、蝶子、棒、吉野、岡崎、梯子の12種類。



①宮入



②神楽



③曲舞



④牡丹



⑤刀



⑥相之山



⑦道引



⑧蝶子



⑨棒



⑩吉野



⑪岡崎



⑫梯子

1 宇原獅子舞のご紹介

(4) 活動拠点

宇原獅子舞が所在する兵庫県宍粟市は、人口約宍粟市は人口3万4千人、土地の9割が森林の自然豊かな街。その宍粟市の山裾にある「宇原地域」は、人口200人程の古墳に囲まれた小さな村である。宇原獅子舞は、**田舎の小さな村から映像を通じて势力的に世界へ日本の伝統芸能を発信**している。2022年9月には、文化庁の支援事業に採択され動画、委託を受けたキャノンマーケティングジャパンによる動画撮影を行った。



(5) 世界へ発信

外務省の所管となる独立行政法人「国際交流基金」から、宇原獅子舞の映像を世界137 力国に配信。**1カ月で118万回視聴を突破**。海外から日本の獅子舞に対する大変に高い評価を得ている。



Chapter 2



社会課題を解決するための挑戦



社会課題

海外から高い評価を受ける日本の伝統芸能が、国内では継承が困難となり衰退している。

地方の過疎化が進む中、継承者の高齢化と少子化による担い手の減少が進み、更に、新型コロナウイルス感染症の流行により伝統芸能を継続する機会が激減。このような状況でも、創意工夫を凝らし、**日本の各地に伝わる魅力的な伝統芸能を子ども達が生きる未来まで途絶えないよう、持続可能な継承を実現する事が、先人達から私達の受け継いだ使命**である。

<社会課題の主な要因>

① 地方の過疎化

総務省の報告では、2023年4月時点で、1,719市町村の内、885市町村（51.5%）が過疎化と示されている。第1次産業が大きく減少し、2020年には、第2次・第3次産業就職者の割合が8割以上を占め、若者が就職の為に、地方から都市へ流出するため、人口流出による地方の過疎化が進んでいる。

② 少子高齢化

日本の総人口は、内閣府によると2005年が1億2千7百万人、2025年が1億2千5百万人、2045年1億6百万人（推定）と減少しています。また、65歳以上の高齢化率も2005年20.2%、2025年30%、2045年36.8%（推定）と増加している。少子化と高齢化の高く推移する事が想定される。

③ 新型コロナウイルス感染症の流行

新興感染症対策として、緊急事態宣言は発令され、多くの催しが2020年頃から2022年にかけて中止となった。そして、伝統芸能を継承するための貴重な機会が失われた。

宇原獅子舞の社会課題を解決するための挑戦とは

『持続可能な伝統芸能の継承』



2 社会課題を解決するための挑戦

『持続可能な伝統芸能の継承』を実現するために、宇原獅子舞が10年間をかけた3つの取り組み

(1) 地元地域に限らない公平な継承者の受入れ



(2) 女性の参画を推進したジェンダー問題の解消



(3) 継承にIOTを導入した積極的なDX化の推進



具体的な内容については、次ページに記載

2 社会課題を解決するための挑戦



(1) 地元地域に限らない公平な継承者の受入れ

10年前まで、宇原獅子舞保存会のメンバーは10名程度、平均年齢は50歳代であり、継承が困難な状況で衰退していた。慣例により、地元地域（宇原地域）に居住する者しか獅子舞に関わる事が出来ず、催事の際には、12演目の内、5演目程度しか継承できていなかった。

この問題を解消するため、10年前から、伝統芸能や獅子舞に興味のある方は、大人から子どもまで地域を問わず公平に受け入れてきた。現在、地元地域以外からの継承者受け入れを行った事により、20代が中心となる30名程の若者（平均年齢35歳）と、子ども達により势力的に活動している。メンバーの2割は地元地域以外からの参画者。近年の催事では、12演目全てを継承して披露している。今後も、地域外からの受入を公平に行う。



(2) 女性の参画を推進したジェンダー問題の解消

10年前まで、獅子舞は女人禁制とされており、縁起が悪いなどの理由によって、女性の参画は厳しく禁じられていた。

このジェンダー問題を解消するため、**10年前に女性が獅子舞に参画できる改革**を行った。現在では、6名程の女性が活躍しており、獅子を回したり篠笛を吹いて活躍している。また、地域の女の子達も積極的に練習へ参加しており将来が楽しみである。ジェンダー問題を解消して伝統芸能の継承に誰もが励んでいる。



(3) 継承にICTを導入した積極的なDX化の推進

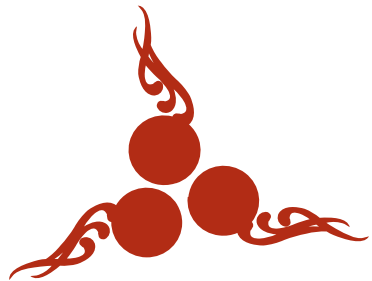
3年前の新型コロナウイルス感染症の流行により、感染対策の一環として集団での集まりが規制された。しかし、私達にとっては、**ICTを導入した取り組みが推進される事になり、宇原獅子舞に大きな変革をもたらす良い機会**となった。各自の個人練習を動画でアップし、それを指導者が確認してオンライン指導する。また、動画の見取り稽古や、オンライン寄合いなど、ICTを積極的に活用した事により、格段に各自が獅子舞へ関わる時間が増え、伝統芸能の継承を躍進させる機会となった。今後も、DX化の推進に尽力する。



Chapter 3



主な実績

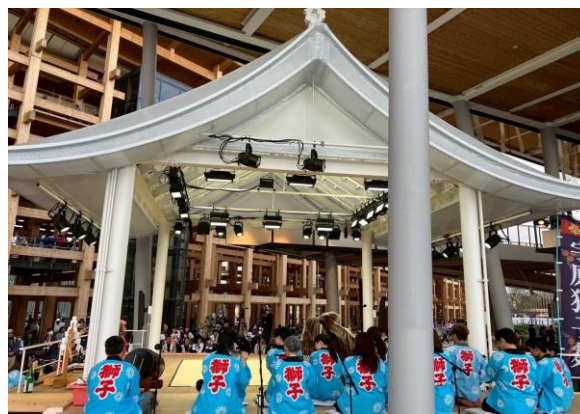


3 主な実績

大阪・関西万博 2025

2025年4月20日（日）

大阪・関西万博会場にて、宍粟市の伝統芸能「宇原獅子舞」が披露され、国内外の来場者から大きな注目と喝采を浴びた。



3 主な実績

地域伝統芸能まつり

2025年3月2日（日）

東京のNHKホールにて開催された地域伝統芸能まつりに出演し、会場からこの日一番の拍手と大歓声を浴びた。また、この出演は全国テレビ放送され、多くの反響が寄せられた。



3 主な実績

2024.12.11 ▶ 伝統文化ポーラ賞授賞

東京ザ・ペニンシュラの授賞式オープニングセレモニーにて宇原獅子舞披露



2025.01.28 ▶ ふるさと文化賞受賞

こうべまちづくり会館の授賞式にて宇原獅子舞披露



3 主な実績

2025.05.28 ▶宇原獅子舞教室

市立戸原こども園にて宇原獅子舞教室を実施



2024.12.07 ▶宇原獅子舞教室

穴栗わかば保育園にて宇原獅子舞教室を実施



2025.04.06 ▶令和7年度消防出初式

穴栗市夢公園 アトラクションとして宮入と神楽を披露



2024.11.23 ▶全国民俗芸能大会（東京）

東京の日本青年会館ホールにて宇原獅子舞を披露



3 主な実績

- ・ 2023.12.03「令和5年度 民俗芸能祭 in ひょうご」出演
兵庫県の芸能祭に宍粟市代表として選出・感謝状授与



- ・ 2023.11.19▶「介護施設イベント」出演



- ・ 2023.11.11▶「森のパラスポーツフェス」出演



- ・ 2023.11.03▶「宍粟市やまさき秋のふれあい文化祭」出演
- ・ 2023.10.08▶「令和5年度 宇原岩田神社秋季大祭」奉納
- ・ 2023.08.06▶「宇原ふれあいの集い」出演

- ・ 2022.10.09▶「文化庁伝統文化支援事業」採択
- ・ 2022.10.10▶「宇原岩田神社秋季大祭」出演
- ・ 2022.11.12▶「障がい者パラスポーツフェス」出演
- ・ 2022.01.27▶「広報しそチャンネル」取材・放送
- ・ 2022.03.17▶「たつの市民病院イベント」出演

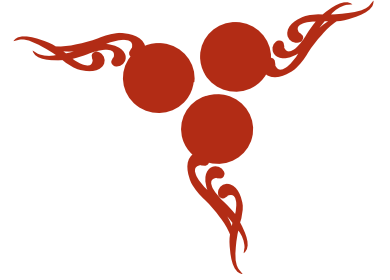


- ・ 2023.03.12▶「第2回宍粟市こどもフリマ」出演
※以降省略

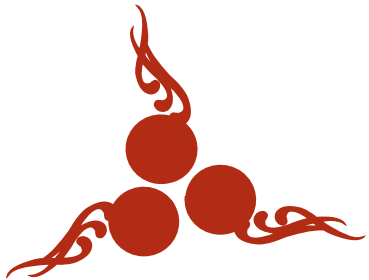
＜補助金実績＞

- ・ 2023年度 地域伝統文化振興支援事業採択
(兵庫県市町職員互助会) 1,000,000円
- ・ 2022年度 伝統文化親子教室事業採択 (文化庁) 297,000円
- ・ 2021年度 地域伝統文化振興支援事業採択
(兵庫県市町職員互助会) 86,900円
- ・ 2021年度 伝統文化親子教室事業採択 (文化庁) 297,000円
- ・ 2022年度 伝統文化親子教室事業採択 (文化庁) 36,000円
- ・ 2021年度 伝統文化親子教室事業採択 (文化庁) 344,000円
- ・ 2020年度 伝統文化親子教室事業採択 (文化庁) 340,000円

Chapter 4



今後の取り組み



4 今後の取り組み

理念を実践する継続的な取り組み

宇原獅子舞保存会の理念は、「宇原獅子舞を活かした地域おこしと地域貢献」。理念を実践する事が宇原獅子舞の使命である。

これまで、「障がい者」や「高齢者」や「子ども達」に伝統芸能を楽しんでもらえるよう、無償で宇原獅子舞を披露してきた。介護施設や障害者施設や子ども達のイベントは恒例化し、毎年、宇原獅子舞を楽しみにしてくれている。その思いに応えるために、大阪万博での催事実施後はより積極的に取り組みを続けていく。



【障がい者への支援】

R5.11月に宍粟市で開催された障がい者のパラスポーツ大会。今年で2回目。
障がい者観客数153名



【高齢者への支援】

R5.11月に宍粟市の介護施設で介護入所される利用者様に獅子舞を披露。
高齢者観客数30名



【高齢者への支援】

R5.8月に宍粟市の公民館で高齢者のふれあい集会で獅子舞を披露。
高齢者観客数86名



【子ども達への支援】

R5.3月に宍粟市のイオンモールのイベントで子ども達に獅子舞を披露。
子ども観客数355名



【障がい者への支援】

R4.11月に宍粟市で初めて開催された障がい者のパラスポーツ大会。
障がい者観客数76名



【高齢者への支援】

R5.3月にたつの市の公立病院の回復期病棟で長期入院患者様に獅子舞を披露。
高齢者観客数112名



【高齢者への支援】

R2.12月に宍粟市の介護施設で介護入所される利用者様に獅子舞を披露。
高齢者観客数46名



【子ども達への支援】

R4.3月に宍粟市立学遊館のイベントで子ども達に獅子舞を披露。子ども観客数256名

宇原獅子舞は
時代と共に進化する事で
持続可能な伝統芸能の継承を
実現する

